



特集 猪高の耀き！明日へ未来へ！

町内に唯一存在する福島県立猪苗代高等学校。スキーの名門校と知られ、スキーや駅伝での全国大会出場など、多数の功績を残しています。また、卒業生にはソチパラリンピック金メダリストをはじめ、スポーツ以外にも各界に多くの優秀な人材を輩出してきました。その猪苗代高校が今、存続の危機が目前に迫っていることを皆さんはご存知でしょうか。

商業系の流れをくむ

猪苗代高校の歴史をひもとくと、昭和15年4月に、猪苗代裁縫女学校が町立猪苗代実科高等学校として設立認可されます。昭和18年4月に町立猪苗代高等学校に改名。昭和23年4月に、県立若松商業高等学校猪苗代分校(定時制農業科)として猪苗代幼稚園を仮設校舎として開設。ここから商業系の流れをくむ高校として再スタートします。そして同年8月には、県立若松商業高等学校猪苗代分校と町立猪苗代高等学校が合併し、県立猪苗代高等学校として独立しました。

昭和24年4月からは普通科、農業科、家庭科(のちに家政科に変更)の3科で生徒を募集。昭和42年度卒業生が263人となり、入学者のピークを迎えます。その後、教育を取り巻く環境の変化や時代の流れに合わせ、昭和48年4月に農業科、昭和54年4月に家政科の募集を停止。平成6年4月には地域の特色を生かすため、国際観光科が新設されます。平成28年度からは普通科と観光ビジネス科の2科、各40人定員となり現在に至ります。

猪苗代高校は、スキーの名門

校としてもその名を全国に轟かせています。昭和49年2月に開催された全国高校総合体育大会スキー競技では、男女共に総合準優勝を果たすなど、数々の功績を残してきました。

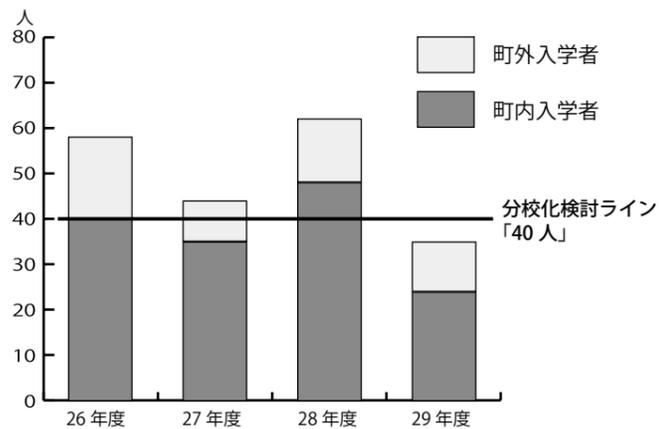
卒業後の進路においては、大学や専門学校などへの進学のほか、高い就職率を誇り、今年で創立70周年を迎える歴史と伝統ある学校です。

存続の危機が迫る

このような輝かしい歴史と伝統を誇る猪苗代高校が今、存続を危惧すべき状況に迫られていることを皆さんはご存知でしょうか。

福島県の県立高校の学校統廃合等を検討する際の基準に照らし合わせると、「2学級規模の本校」である猪苗代高校の場合、3年連続で入学者が募集定員の2分の1以下となった場合には分枝化が検討されることとなっています。また、仮に分枝化された場合、3年連続で入学者が募集定員の2分の1以下となると生徒募集停止が検討されることとなります。

入学者数は、昭和42年度卒業生(第18回卒)の263人をピークに年々減少しています(※当時は普通科、家政科、農業科の



3科)。近年の入学者数は、2学級合計の募集定員が80人に対して、平成26年度は58人が入学。平成27年度が44人、平成28年度が62人といずれも定員割れとなったものの募集定員の過半数は下回りませんでした。平成29年度は入学者が35人となり、「分枝化の検討ライン」である40人を初めて下回りました。

少子化の影響により全国的に子どもの数が減少していることを鑑みると、「分枝化などの検討がなされる」という事態が迫ってきていることが伺えます。入学者数の推移は【グラフ】のとおりです。

高校が無くなるということ

猪苗代高校の平成29年度の入学者数が募集定員の2分の1を下回りましたが、直ちに廃校が検討されるわけではありません。しかし将来、仮に廃校という最悪の事態になった場合を想定すると、地域へさまざまな影響を及ぼすことが懸念されます。

町唯一の高校が廃校になれば、町から活気が無くなる可能性があります。猪苗代高校では、生徒会などに所属する生徒が磐梯まつりに参加して祭りの盛り上げに一役買ったたり、スキーなど各種大会で活躍したりする姿を見ることができなくなります。

町外の高校に通学する場合は、電車などの交通費や寮に入る場合は寮費などが必要になり、家庭にとっても負担が増加することになります。

例年、猪苗代高校入学者の多くは町内中学校の出身者が占めています。猪苗代に生まれた子どもたちが、高校生の多感な時期を勉強や部活動を通じて友達と一緒に過ごす。自然豊かな猪苗代で過ごすことで、ふるさとへの郷土愛が育まれます。就職などで町外に出ることがあっても、ふるさとを応援しようとする

特色ある取り組み

猪苗代高校では現在、少人数校であることのメリットを生かしたカリキュラム作成やきめ細やかな個別指導などに取り組んでいます。

【普通科】

普通科では、大学や短大などの上級学校への進学や公務員などの就職を目標に自己を高めます。生徒の進路希望に応じた進路指導や充実した朝学習による学習意欲の向上と基礎学力の定着を図ります。また、漢字検定や英語検定にも挑戦し、高いスキルを身に付けます。

【観光ビジネス科】

観光ビジネス科は商業系のカリキュラムが主体となります。地域の基盤産業である観光について専門的に学ぶほか、商業に関する高い知識を身に付けます。企業実習と学校の講義を組み合わせた「デュアルシステム」を導入し、実践的な職業能力を開発します。また、簿記検定や情報処理検定などの商業関連の実務的な資格取得を目指します。

猪高の新たな展開！！

来年度、公務員対策講座がスタート



プロジェクトリーダー
長谷川 匠 教諭

本校では来年度から、郡山市のケイセンビジネス公務員カレッジと連携し、年間を通して公務員講座を実施します。

公務員受験指導に定評のある専門学校と手を組み、市町村職員や警察官、消防士などの合格やSPI（適性検査、性格検査）を重視する企業、大学進学後の公立保育所などの保育士・幼稚園教諭も視野に入れた講座を開設します。



猪苗代高校の「ここがイイね！」
生徒たちが学校の魅力を
紹介します。

少人数教育による個別指導や進路相談、生徒会や部活動での取り組みなど、猪苗代高校の魅力を紹介します。

私たちが学校生活を紹介します



台湾の高校生との交流会（5月29日）



磐梯まつりでお茶を振る舞う茶道同好会の生徒ら



星野 一步さん

スキー部 普通科3年生

伝統あるスキー部では、全国大会での上位入賞を目指して日々さまざまな練習をしています。猪苗代は、夏場の練習も含め、スキーをするには良い環境にあると思います。授業では、資格取得に向けた内容もあるので、進路にとっても役立ちます。



佐藤 哉斗さん

野球部 普通科1年生

私が所属する野球部は部員数が少なく、会津西連合としてチームを結成しています。人数は少ないですが、先生がノックやバッティングピッチャーをしてくれるので、その分一人当たりの練習時間を取ることができ、確実に上手くなれると思います。



増子 廉大良さん

バドミントン部 普通科2年生

バドミントンは持久力や敏捷性を高めることができるスポーツです。私はバドミントンのおかげで腕力が強くなりました。普段の授業では、先生が個別指導をしてくれるので、苦手な科目もしっかりと学ぶことができます。文武両道を目指したいと思います。

私たちの自慢はなんと言っても生徒たちがとても元気で仲が良いことです。全校生の人数は少ないですが、その分、学年を越えて深い付き合いができています。先生方の指導も熱心で、良い学習環境にあると思います。生徒会やJRC委員会の活動も活発です。磐梯まつりやトリアスロン大会などでボランティア活動に取り組んでいます。先日開催されたインターハイでも補助役員として参加しましたが、とても良い経験になりました。私たちの若い力で町を盛り上げていければと思います。



生徒会長 遠藤 涼斗さん

学校の特色の一つとして、少人数だからこそできるTT（ティーム・ティーチング）という授業があります。TTでは、1科目に2人の先生が付いてくれるため、分からないことがあればすぐに先生に相談することができます。また、進学、就職の進路別に授業を行っていますので、自分の進路希望の実現に向けた学習ができます。私が所属するJRC委員会ではボランティアなどさまざまな活動を行っています。活動を通じて得た貴重な経験を学校生活に活かしていきたいです。



JRC委員会委員長
古川 芹菜さん

Interview 卒業生の声

猪苗代高校の卒業生3人に、 高校時代の思い出などについて聞きました。

私が写真を始めたきっかけは、中学1年生の時に猪苗代中の写真部に入部したことでした。カメラを手にし、暗室で出来上がった写真を見たとき、頭から足の先まで電撃が走るような衝撃を覚え、写真の道にのめり込みました。猪苗代高校時代には、柔道部と写真部を掛け持ちでやっていました。その時、写真部顧問の渡部忠先生に出会います。渡部先生からは写真の基礎を教わり、部員たちと競い合うように写真を撮っていたのを覚えています。震災後に仕事がなくなり、私のすさんだ気持ちを救ってくれたのが地元福島其自然や草花でした。猪苗代は大切なふるさと。自然豊かな猪苗代に育ったことが、クリエイティブな今の仕事にも役立っています。



写真家 野口勝宏さん
第35回ニコンフォトコンテストグランプリ受賞、第26回みんゆう県民大賞芸術文化賞受賞、全日空「東北フラワージェット」デザインなど、多方面で活躍

少人数の学校ということもあり、在学中は生徒同士はもちろん、先生方とも垣根を越えた付き合いができたと思います。猪苗代高校では商業系の科目について勉強することができました。私は生まれ育った猪苗代町が好きなので、地元での就職を希望していました。「デュアルシステム」では、1週間、ホテルでの企業実習を体験しました。ホテルを訪れたお客様と接し、普段の授業では得ることができない貴重な経験ができましたし、就職試験の面接ではこれらの経験が生かされたと思います。高校生がオリジナルの旅行企画で競う「観光甲子園」に応募したことも良い思い出です。高校時代に学んだことが今の仕事にも生かされていると思います。



古川公望さん
東邦銀行猪苗代支店勤務

私は高校在学中の3年間、部活動で野球に打ち込んでいました。3年生の夏、試合は残念ながら1回戦で敗退。私は就職希望だったのですが、部活動引退と同時に気分も完全に燃え尽きてしまいました。そんな時、当時の担任の先生から「真剣に進路を考えた方がいいぞ」とアドバイスをいただきました。周りの人たちが次々と進路を決めている状況に、とても焦ったのを覚えています。しかし、先生方が親身になって進路相談に乗ってくれ、無事に就職することができました。高校の3年間は、社会人になるための土台作りの時期だと思います。在校生たちには、将来を見据えて充実した高校生活を送ってほしいです。



小嶋山凌さん
会津オリンパス勤務



渡部 英一 同窓会長

70年の歴史に敬意と感謝、 そしてさらなる飛躍を！

学校創立以来、携わっていただいた先生方、在校生、町民の皆さん、町、関係諸団体など、多くの方々にお世話になり、今年創立70周年を迎えることができました。ご支援いただいた皆様、感謝の気持ちでいっぱいです。地域とともに育ってきた猪苗代高校は、各界で活躍する卒業生を多数輩出してきました。

創立後は、時代の移り変わりとともに募集学科が変更され、少子化の影響もあって生徒の募集定員は減少傾向にありました。このような背景の中、「地域に根差し、県内の産業を支える

特色ある科目を新設しよう」と平成6年に国際観光科が作られました。国際観光科は、商業系のカリキュラムに地元産業の柱の一つである観光の要素を加えた県内唯一の学科です。観光に関する学習では、地元の観光産業の専門家を非常勤講師に迎えて授業を行っています。一方、国際観光科で高度な商業系の勉強もしていることが分かります。という意見があり、平成28年から観光ビジネス科に名称が変わりました。

さて、同窓生の人たちもみんなが猪苗代高校を応援しています。同窓会東京支部の人たちも熱い思いでふるさとを見守ってくれています。少子化の波が押し寄せてはいますが、猪苗代高校が日本の将来を担う人材を育成する学校として、今後も存続してほしいと思います。

在校生の皆さんには、勉強や部活動など高校生活を十分満喫してほしいです。卒業しても猪苗代高校の出身であることを誇りに、「猪苗代の大使」としてさまざまな分野での活躍を期待しています。できれば、猪苗代町に戻ってきてほしいです。

70年の歴史と伝統、そして これから



猪苗代高等学校
佐藤 京治 校長

本校は、今年で創立70周年を迎えます。地域の皆様には、これまでさまざまなご支援をいただいで参りました。卒業生、在校生に代わり厚く御礼申し上げます。おかげさまで、本校はこれまで約1万人の有能な人材を県内外に輩出して参りました。同窓生の本校への思いはとて強く、同窓生の校歌や凱旋歌の大合唱を聞くたびに鳥肌が立ちます。その歴史と伝統を受け継ぎ、この猪苗代高校をさらに充実、発展させていくのが私の使命だと考えています。今年度の取り組みとして、大

能率大学、千葉商科大学、北里大付属保健衛生学院などを進めています。また、来年度からは、おそらく県内では初の試みとなる高・専門連携の公務員講座を後援会の協力を得て開設します。年間を通して、郡山市のケイセンビジネス公務員カレッジと連携し、市町村職員、警察官、消防士、自衛官等の公務員試験対策に全力を注ぎます。高校の早い段階から公務員試験に慣れ親しむことで、そのノウハウを体得し、現役合格につながっていきます。

結びに、今後も「地域の皆様に愛される猪苗代高校」を目指して参りますので、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

校訓
英 知
忍 耐
勤 勞